

## 2. 調査結果

### (1) 調査結果

水質階級別調査地点数は、表-2に示すとおり、水質階級が“きれいな水”と判定された地点は15地点(23.8%)、“少しきたない水”と判定された地点は35地点(55.6%)であった。

一方、“きたない水”と判定された地点は10地点(15.9%)、“大変きたない水”と判定されたのは3地点(4.8%)であった。

<表-2> 水質階級別調査地点

水質階級		調査地点数	(%)
きれいな水	I	15	23.8
少しきたない水	II	35	55.6
きたない水	III	10	15.9
大変きたない水	IV	3	4.8
計		63	100

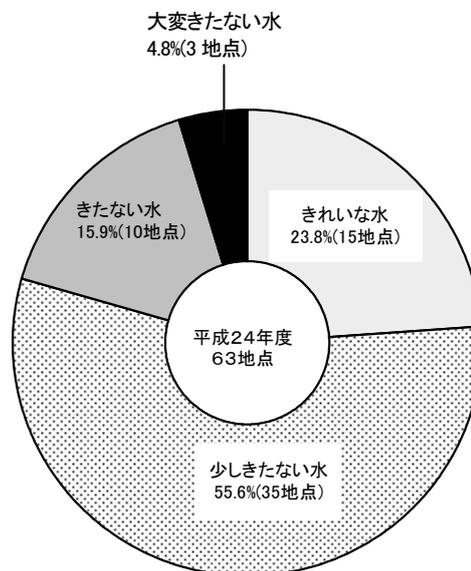


図-2 水質階級別調査地点数の割合

平成24年度の調査地点63地点のうち41地点が平成23年度と同じ地点での調査であった。これらの41地点の水質階級を比較すると、同じであったところが25地点、よくなったところが5地点、悪くなったところが11地点であった。

<表-3> 前年度に対する水質階級の比較 (前年度と同一地点で実施された地点の比較)

	前年度よりよくなった	前年度と変わらない	前年度より悪くなった	全地点数
調査地点数	5	25	11	41
割合 (%)	12.2	61.0	26.8	100

<表-4> の表記例

調査団体	1ページ<表-1>調査団体一覧の団体番号を用いる		
生物採取場所	1:川の中心 2:上流から見て右岸 3:上流から見て左岸		
流れの速さ	F:速い(毎秒60cm以上) M:普通(毎秒30~60cm) S:遅い(毎秒30cm以下)		
川底の状態	1:頭大の石が多い 4:コンクリート 7:コケ	2:こぶし大の石が多い 5:砂と泥 8:その他	3:小石と砂 6:泥
指標生物の出現状況	出現状況の欄に○印 ただし、出現した指標生物のうち、最も多かった種類には●印		





## (2) 指標生物の出現状況

指標生物の出現頻度および調査地点において最も数が多いと報告された指標生物(優占種)の出現頻度は、表-5のとおりである。

平成24年度に最も多くの地点で出現した指標生物は、スジエビであった。

<表-5> 指標生物の出現頻度及び優占種となった指標生物の出現頻度

水質階級	指標生物	指標生物の出現頻度(回)	指標生物の出現割合(%)	階級別出現割合(%)	優占種となった頻度(回)	優占種になった割合(%)
I きれいな水	1 アミカ	0	0.0	23.1	0	0.0
	2 ウズムシ	13	3.7		3	2.6
	3 カワゲラ	18	5.1		6	5.2
	4 サワガニ	11	3.1		5	4.3
	5 ナガレトビケラ	5	1.4		0	0.0
	6 ヒラタカゲロウ	19	5.4		9	7.8
	7 ブユ	6	1.7		0	0.0
	8 ヘビトンボ	3	0.8		1	0.9
	9 ヤマトビケラ	7	2.0		2	1.7
II 少しきたない水	10 イシマキガイ ※	7	2.0	38.6	1	0.9
	11 オオシマトビケラ	9	2.5		1	0.9
	12 カワニナ	18	5.1		8	6.9
	13 ゲンジボタル	8	2.3		1	0.9
	14 コオニヤンマ	16	4.5		3	2.6
	15 コガタシマトビケラ	13	3.7		6	5.2
	16 スジエビ	41	11.5		23	19.8
	17 ヒラタドロムシ	15	4.2		7	6.0
18 ヤマトシジミ ※	10	2.8	4	3.4		
III きたない水	19 イソコツブムシ ※	4	1.1	25.1	1	0.9
	20 タイコウチ	2	0.6		0	0.0
	21 タニシ	21	5.9		5	4.3
	22 ニホンドロソコエビ ※	2	0.6		0	0.0
	23 ヒル	39	11.0		11	9.5
	24 ミズカマキリ	5	1.4		1	0.9
	25 ミズムシ	16	4.5		8	6.9
IV 大変きたない水	26 アメリカザリガニ	11	3.1	13.2	3	2.6
	27 エラミミズ	6	1.7		0	0.0
	28 サカマキガイ	16	4.5		3	2.6
	29 セスジユスリカ	12	3.4		4	3.4
	30 チョウバエ	2	0.6		0	0.0

(注) 割合については四捨五入のため、合計が100%にならないことがある。

(注) ※は、海水の少し混ざっている汽水域きすいいきの生物

### (3)河川別調査結果の概要

表-4 から考察される河川別調査結果の概要は次のとおりである。また、各調査地点における水質階級は、図-1 及び表-4 のとおりである。

① 伝法川

伝法川では 3 地点で調査が行われ、“少しきたない水”と判定された。優先種はスジエビ、ヒラタドロムシ、ミズムシ、サカマキガイであった。

② 湊川

湊川では 4 地点で調査が行われ、“きれいな水”“少しきたない水”と判定された。優先種はカワゲラ、ヤマトビケラ、オオシマトビケラ、コオニヤンマ、スジエビであった。

③ 与田川

与田川では 2 地点で調査が行われ、“少しきたない水”と判定された。優先種はサワガニ、カワニナ、コオニヤンマ、スジエビであった。

④ 爛川

爛川では 1 地点で調査が行われ、“きれいな水”と判定された。優先種はサワガニ、ヒラタカゲロウであった。

⑤ 津田川

津田川では 3 地点で調査が行われ、“きれいな水”“少しきたない水”と判定された。優先種はカワニナ、スジエビ、ヒル、セスジユスリカであった。

⑥ 新川水系

新川水系では春日川 5 地点、葛谷川 1 地点で調査が行われた。春日川で“きれいな水”から“きたない水”まで判定され、葛谷川で“きれいな水”と判定された。優先種は、春日川でウズムシ、カワニナ、コガタシマトビケラ、スジエビ、ヤマトシジミ、イソコツブムシであり、葛谷川でサワガニ、ヒラタカゲロウであった。

⑦ 御坊川

御坊川では 1 地点で調査が行われ、“少しきたない水”と判定された。優先種はカワニナ、アメリカザリガニであった。

⑧ 香東川水系

香東川水系では香東川 6 地点で調査が行われ、“きれいな水” “少しきたない水” “大変きたない水”と判定された。主な優先種はカワゲラ、ヒラタカゲロウ、コガタシマトビケラ、ヒラタドロムシ、セスジユスリカであった。

⑨ 本津川

本津川では 3 地点で調査が行われ、“きれいな水”“大変きたない水”と判定された。優先種はカワゲラ、サワガニ、ヤマトシジミ、サカマキガイ、セスジユスリカであった。

⑩ 青海川

青海川では 1 地点で調査が行われ、“少しきたない水”と判定された。優先種はイシマキガイ、カワニナであった。

⑪ 神谷川

神谷川では 1 地点で調査が行われ、“少しきたない水”と判定された。優先種はスジエビであった。

⑫ 綾川

綾川では 12 地点で調査が行われ、“きれいな水”“少しきたない水”と判定された。主な優先種はカワゲラ、ヒラタカゲロウ、コガタシマトビケラ、スジエビ、ヒラタドロムシであった。

⑬ 大東川

大東川では 2 地点で調査が行われ、“きたない水”と判定された。優先種はタニシ、ヒルであった。

- ⑭ 土器川  
土器川では2地点で調査が行われ、“きれいな水”“きたない水”と判定された。優先種はウズムシ、ヒラタカゲロウ、ヒル、ミズムシであった。
- ⑮ 金倉川  
金倉川では2地点で調査が行われ、“少しきたない水”と判定された。優先種はスジエビ、ヒラタドロムシ、ヒル、ミズムシであった。
- ⑯ 桜川  
桜川では1地点で調査が行われ、“きたない水”と判定された。優先種はヒル、ミズムシであった。
- ⑰ 弘田川  
弘田川では5地点で調査が行われ、“少しきたない水”“きたない水”と判定された。優先種はカワニナ、スジエビ、ヤマトシジミ、ヒル、ミズカマキリ、ミズムシであった。
- ⑱ 高瀬川  
高瀬川では5地点で調査が行われ、“少しきたない水”“きたない水”と判定された。優先種はカワニナ、コガタシマトビケラ、スジエビ、タニシ、ミズムシ、アメリカザリガニであった。
- ⑲ 瀬入川  
瀬入川では1地点で調査が行われ、“きたない水”と判定された。優先種はタニシ、ヒルであった。
- ⑳ 一の谷川  
一の谷川では1地点で調査が行われ、“少しきたない水”と判定された。優先種はスジエビ、ヤマトシジミ、アメリカザリガニであった。
- ㉑ 柞田川  
柞田川では1地点で調査が行われ、“きたない水”と判定された。出現した指標生物はタニシ、ヒル、ミズムシ、アメリカザリガニ、サカマキガイであった。